

# 令和4年度 第1回 大阪府立山田高等学校 学校運営協議会 議事録

日時：令和4年7月14日（木） 15：30～17：00

場所：校長室

出席者：友谷委員、西田委員、速水委員、川上委員、山岸委員、西川委員

佐々木校長、坂口教頭、轟事務長、金子首席、住友指導教諭、南教諭、永野首席

記録： 永野

## 1. 校長挨拶

- ・ 日頃からの協力への感謝
- ・ 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・ 学校行事（校外学習、体育祭）が例年通り行うことができた
- ・ 学校の役割は「生徒を伸ばす」ことだと考えている。

## 2. 委員の確認・委嘱状授与・自己紹介

## 3. 会長選出

- ・ 友谷委員が会長に選出される
- ・ 西田委員が副会長に選出される

## 4. 会長挨拶

学校を支えるために様々な意見をさせてもらう。

## 5. 学校運営協議会について

- ・ 実施要項
- ・ 保護者からの意見書について 保護者に周知する。
- ・ 保護者から意見書が提出されたときの流れの確認

## 6. 令和4年度学校経営計画について

令和4年度学校経営計画について（佐々木校長より）

- ・ 基本的に令和3年度の学校運営協議会で確認したものから変更なし
- ・ 教育庁での面談で達成状況をどのように確認するののかとの質問があったため、達成状況の評価指標を追記した。例えば、交通安全指導を継続する→交通事故0を目指す 等
- ・ 生徒がどのようになってほしいかをできるだけ数値で示したい。
- ・ 生徒の自尊感情を高め、困難を乗り越える力の育成をめざす。
- ・ 疑問を持って、自分なりの意見を持ち、解決策を考え実行する生徒になってほしい。
- ・ 学校はチームとして目標に向かっていく。
- ・ 生徒を育てるためには地域・家庭の協力が必要不可欠

- ・生徒のメンタル面の問題については教育相談委員会を中心に生徒の見守り・支援を行っている。それらの生徒へどのような支援が必要かに悩むことも多い。

#### 図書館利用・授業充実について（住友指導教諭より）

- ・今年度より本館 1 階に自習室が設置された影響もあり、自習の利用者は減っている。
- ・貸出数については、生徒数減にかかわらず、増加している。
- ・昨年実施できなかった校外図書選定を実施する。本を選ぶ楽しさを生徒に知ってほしい。
- ・図書館はもっと開かれてもいいと思っている、利用の機会を増やしていきたい。保護者対象授業公開週間に図書館見学会も実施した。
- ・赤本の利用は例年に比べて少ない
- ・授業充実プロジェクトチームのリーダーを今年度より交替。人に付く仕事ではなく、組織として推進していく。
- ・学年別授業見学会を今年度も開催予定。
- ・BT の有効性の意識は生徒・教職員ともに定着している。
- ・初任者研修の支援を行う予定である

#### スクールミッション・スクールポリシーについて（佐々木校長より）

- ・スクールミッション・スクールポリシーとはなにか。
- ・高校生の学習意欲を高めることが必要である。
- ・将来の社会像、地域像を見据えながら、山田高校がどのような役割をはたすか。
- ・地域が山田高校に求めているものを把握しておきたい。
- ・今後夏から秋にかけて原案を作成、次回の学校運営協議会で確認をしていただきたい。

#### 今春の進学状況について（坂口教頭より）

- ・今春卒業生の進学状況について報告
- ・先輩の実績をみて、後輩も自分たちもできるという意識が芽生えている。

## 7. 質疑応答・意見交換

（事務局）山田高校はどうあるべきと地域は考えているかを知りたい。野球部が近畿大会に出場した際には、地域から様々な温かいお言葉をいただいた。

（委員）特別活動とは具体的に何を指しているのか。

（事務局）学校行事や HR 活動を含めた、授業以外の活動のことである

（委員）授業充実 PT は山田高校独自の取り組みであるか。

（事務局）家庭学習の習慣が身につけていないという課題があることから始めた取り組みである。推進する授業充実プロジェクトチームは、授業力を向上させたいという有志の教員が集まってできた組織である。

(委員) スクールミッションは大阪府の取り組みであるなら、公立高校としてどうあるべきかも示す方が良いのではないかと、私学との違いについても示す方が良い。

(事務局) 確かに、公私の切磋琢磨は必要である。自身は私学より公立の方が生徒に手厚く接しているのではないかと考えている。入学した生徒を最後卒業まで育てたいと考えている。

(委員) スクールミッションは長文になるのか。

(事務局) 長文にする予定はない、作るからには実のあるものを作成したいと考えている。

(委員) 山田高校は、歴史のある山田地区に建っており、その中心にある学校である。小学校も古く、小学校、中学校というつながりがあると認識している。地域の方々にとっては、とても親しみのある学校であると考え。これからも地域との連携・繋がりを重視した学校であってほしい。地域に開かれた学校、どのようなことをして、どのような生徒がいる学校かを地域の方々がよく知っている学校であってほしい。

(事務局) 吹田という地域は、高校と地域との繋がりが強い地域であると感じている。

(委員) 高校も特徴を出していかないといけない。同じ公立高校でも特徴がないと生徒を集めることができなくなっていく。

(事務局) 生徒がとても良いので、いつも助けられている。生徒と地域のつながりにも感謝している。

(委員) 部活動も盛んである印象がある。今までの蓄積から、さらに次へと発展させてほしい。

(事務局) 部活動においても地域の力を貸していただけるとありがたい。

(委員) SDG sに取り組んでいるのは大きな特徴であると考えている。今でこそ SDG s に取り組む学校は増えているが、それより前から SDG s に取り組んでいるのは素晴らしい。

(事務局) 今年度から新たな取り組みを始めている。2年では実践的な取り組みとして、学んだことを生徒たちの行動につなげている。7月22日に万博記念公園駅で生徒主体で SDG s のイベントを行う予定である。

(委員) 山田高校のOBであることを、良い印象を持っていただいていることを感じる。実際に訪問すると、生徒が気持ちよいあいさつを返してくれる学校であることが嬉しい。生徒がさわやかで、とても高校生らしい生徒がいる学校であると感じている。人の役にたてる、貢献できるというのは素晴らしい人生であると生徒に伝えてほしい。

(委員) メンタルに課題をかかえている人が増えていることは自身も感じている。コロナの影響で、人と人とのコミュニケーションが減っていることが原因なのかなと思う。

## 9. 諸連絡

次回(第2回)の日程: 11月下旬を予定(昨年は11/26)